

会 議 録

会議名	令和3年度第1回印西市地域福祉計画推進委員会 会議
開催日時	令和3年8月4日（水） 午前10時00分から午後0時10分まで
開催場所	市役所 農業員会会議室
出席委員	松山毅委員長、武田好子副委員長、鈴木千夏委員、近藤幸一郎委員、 三島木健委員、中村智恵子委員、山口茂委員、渡邊勝久委員、 安瀬多希子委員、白岩三郎委員、平野義明委員、森本光子委員、鈴木康弘委員 計13名
欠席委員	0名
出席職員等	[事務局] 社会福祉課 堀越課長、細井課長補佐、稲村係長、石井主査
傍聴者	1名
会議次第 議 題	1 開会 2 委嘱状の交付 3 市長挨拶 4 委員及び事務局紹介 5 議事 (1) 委員長及び副委員長の選出について (2) 第3次印西市地域福祉計画実績報告について (3) 第4次印西市地域福祉計画取り組み内容について 6 その他 7 閉会
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・印西市地域福祉計画推進委員会設置要綱 ・印西市地域福祉計画推進委員会名簿 ・第3次印西市地域福祉計画（概要版） ・第4次印西市地域福祉計画 ・【資料1】第3次印西市地域福祉計画実績報告について【令和2年度実績】 ・【資料2】第3次印西市地域福祉計画達成状況 ・【資料3】第4次印西市地域福祉計画取り組み内容について

会議概要・審議経過

1 開 会
2 委嘱状の交付
3 市長挨拶

4 委員及び事務局紹介

5 議事

資料の確認

会議の公開と傍聴について報告

会議の録音、議事録の承認について

【事務局】 「印西市地域福祉計画推進委員会設置要綱」の規定により委員長が議長となるが、新委員長が決まるまでの間、社会福祉課長に仮議長をお願いしたいがいかか。

【委員】 異議無し。

【議長】 それでは、委員長が選出されるまでの間、仮に議長を務めさせていただく。本日の議事日程は、次第に沿って進めていく。

議事1 委員長及び副委員長の選出について

【議長】 それでは 次第5、議事に入ります。
議事（1）「委員長及び副委員長の選出について」ですが、委員長・副委員長の選出は、会議の設置要綱の規定により委員の互選となるが、推薦をお願いしたい。

【委員】 第4次印西市地域福祉計画策定委員会及び前推進委員会の委員長であった松山委員に、副委員長には前推進委員会では市民生委員児童委員会長に務めていただいていたので、武田委員をお願いしたい。

【議長】 委員長を松山委員に、副委員長を武田委員をお願いすることについて、異議はあるか。

【委員】 異議無し。

【議長】 「異議なし」と認める。委員長を松山委員に、副委員長を武田委員をお願いする。松山委員、武田委員、引き受けていただけるか。

【委員】 はい。

【委員】 はい。

【議長】 それでは、委員長が松山委員、副委員長が武田委員に決定した。委員長が決定したので、仮の議長としての職務を終わらせていただく。

— 議長を委員長に交代 —

議事（2）第3次地域福祉計画実績報告について

【事務局】 それでは、ここからの進行については、本委員会設置要綱の規定により、松山委員長にお願いする。

【議長】 それでは、議事に入る。次第5 議事（2）「第3次地域福祉計画実績報告について」事務局から説明をお願いします。

【事務局】 議事について説明

○質疑

【委員】 全体的な感想となるが、令和2年度は多くのイベントなどが中止となり、全体的にもう少し悪い評価となると思っていた。
しかし、全体的に評価は低くなっているが、WEBなどを活用し、工夫しながら事業を実施しており、思ったより悪くなく、努力しているというのが率直な感想である。

【委員】 この評価については、庁内の各部署での自己評価となっているため、概ねできたの評価Bに偏った結果が多く出ているように思える。そういった中でコロナ禍での対応の事例が紹介されたと思うが、全くできなかった事例もある。そういった事業については、課題等を検討し、計画にあったとしても方向性を変えてみる、または形を変えて実施した結果、より良い結果が出た場合は計画にこだわらず、新たなやり方で事業を進めていくなど、流れを作るといった意味では、良い結果であったと思う。
29ページの事例のように、今までは対面して相談等にのるといった仕組みの中で活動をしていたが、コロナ禍により対面することができなくなり、事業内容を見直し、地域の方や高齢者の方とのつながりを保ちながら、新たな方法を見つけて、コロナの収束後、また事業がスタートできるような取り組みを始めている。こういった事例を他の事業展開の参考にしていただきたい。

【事務局】 次の議事でも触れますが、第4次印西市地域福祉計画の14ページをご覧ください。コロナ禍における地域福祉の推進としまして、委員からもご意見いただいたように、コロナ禍においても工夫しながら、目的をどのように達成していけばよいのかという検討の必要性については、次の計画でも明記しており、今まで以上に工夫をしながら、地域福祉計画の取り組みを進めていきたいと考えている。
また計画の12ページに計画の進行管理として、PDCAサイクルの中でコロナ禍の事業の検証をしつつ、計画を進めていきたいと考えている。

【委員】 これまでの人と人がかかわる交流事業については、支部社協の活動によるところが大きかった。実際コロナ禍になり、多くの支部が活動停止になり、ご苦労されており、そのような中、人とのつながりを絶やさないとすることで各支部において協議、検討していただいて、密にならないパトロール等の活動は継続している。また、船穂そうふけ地区については、ふれあい農園という新たな活動により、新たなつながりも生まれていると聞いている。現状として、大変厳しい状況ではあるが、つながりを絶やさ

ないという視点で活動していただいている。

社会福祉協議会については、国の施策である新型コロナウイルス感染症に係る緊急小口資金の貸付、総合支援資金の貸付が申請受付から決定まで640件以上あり、相談を含めると1,000件以上にのぼっている。令和2年度については、その対応に追われ、十分な活動ができなかった状況であった。そのような中、ホームページの充実等に注力し、支部のコロナ禍での活動について、詳しい事業展開を公開し、支部のモチベーションにつながるよう取り組んでいる。

【議長】 令和2年度については、資料2からもわかるように、終始、コロナ対応に追われてしまっている。基本目標2については、個別支援の項目が多くあり、ある程度達成していることがわかる。

基本目標1のコミュニティづくりや、基本目標の3の環境づくりについて、従来、地域福祉が重点を置いていた「つながり」や「対面的な交流」等については、低調になってしまう傾向がわかった。

第3次地域福祉計画を実施したことによって印西市の地域福祉は進んでいるのか、市として第3次計画を実施して、どのような成果があったかなどの全体的な評価をどのように考えているのか。

【事務局】 全体の評価については、具体的には纏まっていない状況である。

【議長】 地域福祉については、数値化できない目標が多いため、評価することが難しい。各部署において、それぞれ計画している事業が地域福祉計画に含まれている、またはリンクしている事業があり、そういった事業を除外した場合、地域福祉計画のみに計画されている事業は、どのようなものなのか。その部分が進んでいるのか。地域福祉の難しいところは、横断的に事業は実施していかなくてはならないところである。子育てには包括支援があり、高齢者福祉にも包括支援があり、障害者福祉には総合相談があり、それぞれの部署では包括的な相談等に取り組んでいるが、縦割りの包括をさらに横断的に取組める仕組みづくりやシステムづくりが、地域福祉計画の重要な点であると考えている。このような視点で第3次地域福祉計画の全体的な評価について、機会があれば教えてほしい。

【議長】 他に何かありますか。

【委員】 特になし

議事（3）第4次印西市地域福祉計画取り組み内容について

- 【議 長】 議事（3）「第4次印西市地域福祉計画取り組み内容について」、事務局から説明をお願いします。
- 【事 務 局】 議事について説明
- 【委 員】 計画期間中、令和3年度から7年度までの取り組み計画に変化がなく、計画期間の中で達成目標などを記載すべきと思うが、事務局はどのように考えているのか。
- 【事 務 局】 今回の取り組み計画につきましては、計画の初年度でもあり、改善が必要な事項については、毎年度、実績を踏まえて、担当部署には計画の見直しを行っていくよう計画を進めていく。そのため、取組内容については、変更していくものと認識している。
- 【委 員】 令和7年度を最終目標として、取り組むのではなく、毎年度毎年度、変更していくという事でよいか。
- 【事 務 局】 令和3年度を基準に担当部署では検討し、その結果を踏まえて次年度への取り組みについて見直ししながら、繋げていくこととしている。その結果については、毎年度、当推進委員会に報告させていただく。
- 【議 長】 本来、計画であるため、見通しを持って進めていく資料の作成や、単年度ごとではなく、この年度ではどのように進めていくのかという意識を持っていくものであると思う。事務局から説明があった単年度の結果に基づいて計画を進めていくという手法もあると思うが、一方で計画というものは5年後にはどのような目標を達成したいのか、そのためにはどのような段階を踏んでいくのか、予算の措置を含めて計画していくものと考え。違和感があるのは、内容にステップアップが見られないこと、多少でもいいので、こういう事を実施していきたい、こういう形にしていきたいという議論があってよいと思う。
- 【委 員】 この取り組みの中でホームページでの周知という記載が多くあるが、ホームページを作って終わりではなく、ホームページをどれだけの人が閲覧しているのか、またどれだけ効果があったかを数値として示し、報告していただきたい。
また、後見制度についてですが、対象者の人数、どのような利用があったかを数値として示していただきたい
- 【事 務 局】 ホームページの閲覧数については、カウントできますので、実績報告としてお示ししたい。
その他事業に関しても、可能な限り、数値化できるものについては実績として報告する。

【議長】 情報提供の媒体は様々あるが、必要な人に情報が届いているかについては追跡が必要であると思う。成年後見制度については利用促進が目的であるため、利用してもらえ
るかの追跡が必要である。

【委員】 他の委員からの意見のとおり、5年間同様の取り組み計画内容というのは、やはり長く感じる。こういったことを目指しますといった目標を掲げた方が良いと思う。79
ページから86ページまでの災害時の避難支援者の要支援者の対応が記載されている。今年度から具体的に計画されており、進めてはいるが難しく感じている。その理由
としては、この計画を地域におろした時に、自治会、町内会などのコミュニティの整備が不十分、若しくは地域によって温度差があることが要因にあると思う。そう
いった仕組みづくりを含めて、避難行動要支援者の取り組みを進めていった方がより
良いものになると思う。千葉日報の記事の中で、大学の研究結果として、地域コミュニ
ティ力と地域での詐欺被害の件数との関係の分析があり、地域コミュニティ力が高いほど、被害件数が低く結果が出ている。担当部署が仕組み作りをしても、活動して
もらう地域住民の意識が低ければ、計画を進めることは困難である。民生委員にも協
力要請が来ているが、自治会、町内会がない地区については、個々具体に対応策等を
記載してもらいたい。

【議長】 メリットなどを市民の方に情報提供されると、計画を進める動機付けにもなると思う。

【議長】 重点目標を進めていくために、段階的に進めていくといった推進の方向性などは検討
されているのか

【事務局】 第2回目の当推進委員会会議を来年1月に開催予定として考えている。第2回推進委
員会議において、17ページに記載している重点施策から何点かピックアップして説
明したいと考えている。

【事務局】 避難行動要支援者避難支援計画について、ご意見をいただきましたので、現状の進捗に
ついて報告させていただく。
避難行動要支援者避難支援計画について説明

【議長】 事務局から避難行動要支援者避難支援計画についての説明があったが、質疑はあるか。

【委員】 民生委員の立場から、普段の見守りの世帯調査と今回の避難行動要支援者計画の対応
については非常に重く受け止めている。課題も多くあり、その中でも特に課題と感じ
ていることは、本計画の重要性、必要性について、一般市民に届いていないことだと思
う。自主防災会や自治会などの組織には、趣旨などを理解していただいて協力を依頼
しているが、一般市民への制度周知については、不足していると感じる。市は機会ある
ごとに計画の必要性や重要性について、市民レベルでの計画の周知、情報提供が必要
であると考え。またこのような計画を進める上で、横断的な体制づくりをお願いし
たい。民生委員、社会福祉協議会、地域包括支援センターについてはある程度情報の共
有を図っており、住民ニーズの把握に努めている。

- 【事務局】 市としましては、市民への周知は大変重要であると認識している。避難行動要支援者避難支援計画を地域福祉計画の重点施策として挙げた理由については、避難支援計画を実施することにより、地域につながりが生まれることを目的としている。市内部においても、計画の周知を図り、関係部署と連携し、時間はかかるが少しずつ計画を推進していきたいと考えているので、引き続きご協力をいただきたい。
- 【議長】 次回以降の推進委員会では、「避難行動要支援者避難支援計画をどう進めていくのか」などのテーマを決めて、市社協、支部社協、民生委員、施設、市民代表と様々な委員が集まっているので、この会議でアイデアを出し合い議論することが望ましい。推進委員会は計画をベースに如何に地域福祉を豊かにするかという推進役、いわばエンジンの役割を担っている。市はこの地域福祉推進委員会会議での議論を活用していただきたい。
- 【委員】 自分の住む地域は少数世帯の小さな地区であり、地域で困りごとがあった場合、まとまって対応できる地区である。地域福祉計画も同様であるが、共通の困りごとがある方がまとまると思う。市も担当部署ごとに成果を出すのではなく、横断的に連携しないと計画も推進しないと思う。
- 【委員】 情報提供の手法について検討していただきたい。高齢者にはデジタル機器の操作は難しく、防災無線も場所によっては聞き取りづらい、または耳が遠い方もいる。ふれあい給食の配食の際に地域包括支援センターなどの周知をしていたが、それさえもできない状況であるため、情報が必要な方への届く方法を検討してもらいたい。
- 【委員】 自分の地区の民生委員を知らない方が60%いる。民生委員の周知を重点的に行うことが必要と考える。また住みやすい街としてアピールした方がよいと思う。人口が増えているが旧住民と新住民との接点がないことも課題であると思う。
- 【委員】 地域と学校と行政の連携が必要であると思う。ニュータウン地区の核となる組織は学校であると思う。核となる学校と地域や行政とをつなげるパイプ役となり、社協支部として活動している。
- 【委員】 コロナ禍で地域の方との交流する機会がないですが、少しでも地域の方の役に立てることがあればと考えている。情報公開の評価とあるが、手引書などがあると事業者としてはありがたいと思う。
- 【委員】 情報の取得については、若い世代や会社勤めの人はネットなどを活用し取得することが可能であるが、一方で高齢者の方は活用できない場合がある。地域や対象者に合わせて情報提供の手法を検討していくことが必要と考える。
- 【議長】 情報取得の課題や地域特性を踏まえ、地域にあわせて計画に取り組む必要がある。但し、市民を育てる必要もあり、行政からのサービスを待つだけでなく、市民自身も

「どのようにしたら、情報は得られるのか」「その情報をどのように活用するのか」など、市民一人ひとりが主体となって検討していく必要がある。

他にご意見はありますか。

【委員】 特になし

【議長】 それでは、これで議事について終わらせていただきたいと思う。
事務局に進行をお返しする。

4 その他

【事務局】 次回会議のお知らせ。

5 閉会

【事務局】 以上で、「令和3年度第1回印西市地域福祉計画推進委員会」を閉会する。

令和3年度第1回印西市地域福祉計画推進委員会会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和 3年 9月 2日

署名委員 鈴木 千夏

署名委員 松山 毅
